

2014年9月4日

## 日本初の機内持ち込み型ヘリコプター動態管理システム『FOSTER-copilot』 内閣府広域医療搬送訓練で各拠点の連携と迅速な医療搬送に活用 ～今春、飛行中の空・陸間コミュニケーション実現、更なる安全運航の支援開始～

株式会社ウェザーニューズ（所在地：千葉市美浜区、代表取締役社長：草開千仁）は、日本初の機内持ち込み型のヘリコプター動態管理システム『FOSTER-copilot』が、2014年8月30日、南海トラフの巨大地震を想定して実施された「平成26年内閣府広域医療搬送訓練」で、迅速な医療搬送に向けてドクターヘリ9機に搭載され、各拠点の円滑な連携と安全かつ効率的な運航判断に活用されたことを発表しました。また、ウェザーニューズでは2014年春、『FOSTER-copilot』に双方向通信機能を追加、ヘリコプター運航において長年の課題であった、飛行中の機体と陸上の運航管理間での双方向コミュニケーションを実現しました。これにより刻一刻と変化する気象状況や目的地の変更など、リアルタイムのやり取りが可能となり、更なるヘリコプターの安全・効率運航に貢献できると期待しています。

### ◆ 内閣府広域医療搬送訓練で『FOSTER-copilot』活用、迅速な医療搬送をサポート

東日本大震災発生直後、全国各地から多くのドクターヘリや救急車、ドクターカーなどが被災地に参集しましたが、各機体/車両の位置情報や出動可否などの情報の一元的な把握が難しく、各拠点の円滑な連携と迅速な医療搬送が課題となりました。2014年8月30日、南海トラフ巨大地震による大分県・宮崎県での甚大な被害発生を想定し実施された平成26年内閣府広域医療搬送訓練で、効率的な医療搬送を実現するため、ドクターヘリ9機に『FOSTER-copilot』が搭載されました。訓練当日、前線の影響で九州南部を中心に雨となり難しい運航判断が求められる中、災害対策本部やSCU(航空搬送拠点臨時医療施設)、基地病院等において、『FOSTER-copilot』によって取得された機体の位置情報と気象情報が運航判断支援ツール『FOSTER-GA』上で一元的に表示され、医療搬送が可能な機体の迅速な選定と、効率的な運航判断に活用されました。



運航判断支援ツール『FOSTER-GA』で  
各機体の位置情報と気象情報を一元化  
(平成26年内閣府広域医療搬送訓練当日の様子)



宮崎県庁で飛行中の機体の位置と  
気象状況を確認する様子

## ◆更なる安全運航支援を目指し、今春、飛行中の空・陸間コミュニケーションが実現

ウェザーニューズは「空の安全を守る」というミッションのもと、2012年夏、低コストで導入可能な日本初の機内持ち込み型ヘリコプター動態管理システム『FOSTER-copilot』を開発しました。現在、全国のドクターヘリの約7割に導入され、安全で迅速な医療搬送に活用されています。

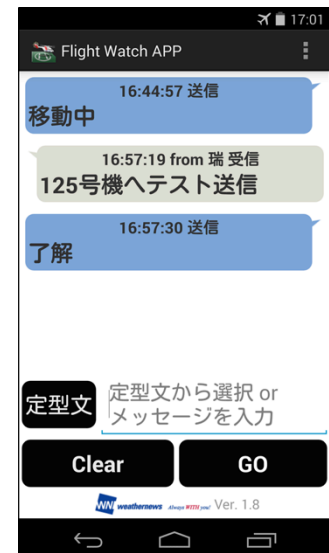
2014年春、当社は更なるヘリコプターの安全・効率運航の支援に向けて、『FOSTER-copilot』にテキストメッセージ交換による双方向通信機能を追加しました。これにより、カンパニー無線が届かないエリアや電波の入らない山岳地域等でも飛行中の機体と運航管理を行う陸上間のコミュニケーションが可能となり、陸上からの気象状況の注意喚起や目的地変更の連絡、飛行中の機体からは現状報告や緊急連絡を送受信することができるようになりました。有視界飛行であることから気象の影響を強く受け、即座の運航可否判断や急な目的地変更が求められるヘリコプター運航において、安全性・効率性の強化に貢献できると期待しています。

また、この双方向通信機能は8月30日の平成26年内閣府広域医療搬送訓練時に『FOSTER-copilot』搭載機のうち1機で活用され、災害時の情報伝達においても有効であることが確認されました。

ウェザーニューズでは、30年間続く航空気象サービスにおいて、今後もヘリコプター運航の安全性と効率性強化に貢献できるサービスの開発および向上に取り組んでいきます。



『FOSTER-copilot』実物  
大きさ：65x26x130 mm 重さ：202g



専用アプリをインストールし、  
スマートフォンでメッセージを送受信  
※飛行中は機内モード設定で利用



運航判断支援ツール『FOSTER-GA』上に飛行中の機体からのメッセージ表示可能  
(平成26年内閣府広域医療搬送訓練当日の様子)